

ハリリーとの出会いは、私には忘れられないものになりました。この本の主人公ハリリーは私にとっても大切なことを教えてくれました。

中学校に入学してから、小学校の頃の友達からも無視されるようになった私は、言葉すらかわしてもらえず、悲しくて悲しくてどうしようもありませんでした。一体どうしてみんなは私を無視するのだろう、私が何をしたのだろうと思いました。理由を聞こうとしても、さらに無視されるのが恐くて聞けません。親にも本当の気持ちを打ちあけることができず一人になると泣いてばかりいました。そうしているうちに学校へ行くのが嫌になってきました。学校を休みたいと思いました。死んでしまえたら楽だな、とも思いました。でも、母に「行きなさい。」と言われたので、つらい思いをしながら、ほとんど毎日車で送ってもらいました。けれども、そのときの私は、母の言った言葉はまったく耳に入っていない、ただハツ当たりばかりしていました。

そんなときに、この本に出会ったのです。

ハリリーは本の中で冒険をします。その冒険は「取り返しのつかないもの」を取り戻す

ための冒険です。

実は彼は自転車事故で死んでしまった少年です。でも、姉に「ごめんなさい。」の一言が言えなかったことがすごく心残りです、本当には死にきれいでいけません。ハリリーはその冒険の目的を果たすため、地上へ降り、全身の気を集中させてなんとか一言「ごめん。」と紙に書こう、この気持ちを伝えようと、一生懸命頑張りました。死んだ者達にはこの

土にかえるように、ハリリーも生命を作るすべてのものの一部になるための場所でした。

私はこの本を読んでいるうちに、どんなにつらいことも、自分自身が頑張ればきつといいことがあるような気がしてきました。そして、なんだか言いたいことが言える勇氣をもらった気がします。死という、この世で一番悲しくて恐いものだと思っていたものさえ、ハリリーは軽々と、くつが

心をもるくし、エネルギーを与えてくれるものだったので。死は、悲しいものから逃げ出す唯一の方法だと思っていたけど、「生きる」ことを楽しめばよいのだと分かりました。今の自分にはないもの、できないことが私の心の中にどんどん入ってきました。

毎日精一杯生きること。生きていくことのすばらしさを感じる。生きていく今を大切にすること。



★中学校の部

私の心が変わった

普代中学校3年

柎屋<sup>まさや</sup>

友美<sup>ゆうみ</sup>さん

えしてしまいました。

「死を恐がらないで。悲しまないで。大丈夫だよ。心配いらないよ。生命を作るすべてのものの一部になるんだから。それってすばらしいことではないか？」

ハリリーは読者のみんなに言いかけました。

私は、その通りだと思いました。死ぬことは、新しい出発をすることなのです。ハリリーが教えてくれたことは、どれも私の

ほかにたくさんあります。今までの自分は、つらいことから逃げ出すことばかりを考えていたけど、与えられた生きる時間は決して長くはないし、つらいことばかりじゃないと、ハリリーに教えられました。そしてこの気持ちを忘れず、全てのことを大切にしていくという気持ちになったのです。

ただ今までは、心配すること。

家族に当たり散らし、困らせてばかりでした。私はこれからは、家族や少しでも私の気持ちを分かってくれた友達を大切にしていきたいと思っています。これは当たり前のことかもしれませんが、私は初めて素直にそう思えたのです。それだけでなく、今までは物事を暗くばかり考えていました。私は周りが急に明るく見え、世の中はそんなに悪いことばかりではないので、これからはもっと前向きに、頑張っていきたいと思っています。

このような心の変化がなぜおこったのかは自分でもよく分からないのですが、今までの自分がなんだか恥ずかしいような気がします。でもまた、つらくなったりしたときは、この本を開いて、ハリリーに元氣と勇氣をもらえると、実は密かに考えています。

今、テレビでは私たちの心をひきつける場面が山のようでもあります。どんな映像よりも、この本は私には力強く訴えてきたのです。

私はこの本に出会って本当によかったと思っています。

.....  
 原文のまま掲載(友美さんは現在、盛岡白百合学園高等学校に進学しています)